

第1回城南空襲焼け跡歩き 2022.10.29

西大井駅集合 案内は豊町で育ち母親から城南空襲の話聞いて育った米屋陽一氏。



①旧品鶴線（貨物線）横須賀線ガードには古い地名が残っている。

江戸、明治は上蛇窪・下蛇窪→昭和7年から上神明・下神明

下蛇窪ガード

上蛇窪ガード



②立会川（暗渠）・立会道路

現在の立会道路は、戦争中は立会川が流れていた。



③のんき通り 戦争中は人がにぎわう

とおりだった。



④建物疎開

線路よりは線路を守るため建物疎開で壊されていた。写真より向こう側。建物疎開には学生が動員された。



⑤金子家（豊町4丁目）

この家は大きな木が多く焼けなかった。木が噴き出す水分が家を守ると言われる。

庭には日本最古の柿の品種（今の川崎市麻生区原産）と言われる禅寺丸柿の木が現存している。



⑦イトウ森 旧杜松小学校とイトウ森



杜松(としょう)国民学校とイトウ森

伊藤清一郎(やすさだ)は俳号を杜松斎景湖といい、蛇窪村の名主だった。自宅内に寺子屋、矢場、柔道場などをつくり子弟の教育に力を尽くしたため旧杜松小学校の名はそこから取った。墓地はイトウ森の一角にある。杜松国民学校は5月24日空襲で焼けた。



伊藤家は森に守られた。

旧杜松小学校は豊葉学園に統合され現在老人ホームになっている。

⑧豊葉学園前旧品川用水跡 今歩道になっているところには旧品川用水が流れていた。



統合する前の大間窪国民学校の敷地で、大間窪国民学校は5月24日に全焼した。

焼け残った跡を歩いて

下神明天祖神社では、神主さんが案内してくださり、天井に開いた焼け跡や、かつて防空壕として使われていた階段脇の入り口は塞がれているが、案内していただき、その跡を見ることで想像することが出来た。

焼け残った地域を歩き、聞かなければわからないことばかり。語り継ぐことの大切さを考えさせられた。

⑨下神明天祖神社

旧下蛇窪村の鎮守

空襲で本殿に焼夷弾が落ちたが、地域の人が水をかけてまもり、天井に焼夷弾が突き抜けた孔が開いている。色が違う部分。きれいに修理をせず保存している。神主さんが案内してくださった。

城南空襲で焼夷弾が刺さった跡



防空壕入口。塞いである

